

## 第7回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日時 令和5年12月22日(金) 14:00~16:00  
会場 ヒューモスファイヴ8階 貸会議室 大(Aホール)  
議題 将来ビジョンの検討について

1. 開会
2. 将来ビジョンの検討について
3. 意見交換
4. 閉会

配布資料 本日の座席表

資料1 将来ビジョンの検討について

資料2〈参考資料〉効果検証の深掘りに活用した主なデータ

資料3〈参考資料〉市民参画イベントアンケート結果&参加者からのコメント

### ○主な意見等

(委員意見)

- ・将来ビジョン検討事務局の視点から、社会実験を通して新たな発見があったら教えていただきたい。

(委員意見)

- ・サラリーマンからは、社会実験の影響で交通渋滞が発生し迷惑だという意見もあったが、一方で今回の取組みを好意的に捉えた意見として、仙台支社の方が出張で来た東京本社の方と打合せに伺う前に事前打合せをする場として社会実験で設けた空間を利用していたことが面白いギャップであった。

(委員意見)

- ・社会実験のコンセプトで設定したターゲットとしては働く人、学ぶ人であったが、休日は圧倒的に子ども連れが多く訪れており少し想定外であった。そのため、子育て世代のニーズを聞き出していく必要があると考える。
- ・また、子育てをする親としての意見のみならず、平日に働くオフィスワーカーの立場としての意見も聞き出していく必要があると考える。
- ・本音を収集できるとより具体的なビジョンづくりにつながると考える。

(委員意見)

- ・【資料2】5ページの「■来訪時の印象は？」について、「おどろき」の具体的な内容をお聞きしたい。

(委員意見)

- ・空間が変わったことによる視覚的な驚きが多かった。赤色、青色による見せ方、子どもが楽し

める空間、焚火、ストリートピアノなど通常とは違うコンテンツにより好奇心を掻き立てたことが要因である。

(委員意見)

- ・基本はポジティブな「おどろき」が多かったと認識してよいか。

(委員意見)

- ・大半がポジティブな「おどろき」であったが、交通渋滞が発生したことによる驚きや、視覚にハンディキャップがある人が普段とは異なる空間に変わってしまい驚いたという意見もあった。

(委員意見)

- ・【資料1】47ページの「新たなターゲット」とは誰のことか。

(事務局回答)

- ・普段は仙台駅前に訪れない人や子育て中の人、子ども等である。

(委員意見)

- ・あり方検討にあたっては、市民の意見に引っ張られ過ぎる必要はないと考える。また、近視眼的に議論することはないとも感じる。
- ・これまで、未来を見据えた意見は市民から出てきたのか。また、東北最大の都市としてこういうものが必要だという意見はあったのか。

(事務局回答)

- ・市民からは現在の視点からの意見が多かった。妄想でも構わないという前提がない限り未来を見据えた意見は出てこない。
- ・意見は仙台市内に住んでいる人によるものが多い。市外からの視点も入れていきたい。

(委員意見)

- ・未来を想定した議論をすると、新たな意見も出てくると思われる。

(委員意見)

- ・今後、未来の視点を踏まえたヒアリング等を実施していきたい。

(委員意見)

- ・現在の仙台駅前は今までとは違う環境にある（さくら野、仙台ホテルの跡地問題等）。このような環境が今後続くことはないと考えている。今後の事を考えると流動人口（東京から来る人の数、在来線・地下鉄・バスの乗客数、オフィス・商業・学生人口）の分析が必要であると考えている。データがあれば提示いただきたい。それも踏まえて駅前エリアの表情を考えていくべきだと思う。
- ・また、札幌、広島、福岡、金沢、岡山などの他の都市の特性と仙台の特性を比較することで、より仙台の特性について知ることができると考える。そのため、都市特性の比較を行い図示していただきたい。

(事務局回答)

- ・ 次回の協議会以降、人口データ、都市の特性データ等を提示したい。

(委員意見)

- ・ 青葉通沿道のオフィスワーカー等との意見交換や人材の発掘を目的として、社会実験の結果を踏まえ、ぎっくばらんに意見交換を行う小規模な会を定期的実施している(通称：ぎっくばらんトーク)。今後ぎっくばらんトークにて、意見を吸い上げてほしいという年齢層や属性について意見はあるか。

(委員意見)

- ・ 学生を対象としての実施はあったか。

(委員意見)

- ・ 対象を学生に絞った実施はしていないが、9月27日のプレ開催では学生も参加している。学生に絞ってやってみてもよいと思っている。

(委員意見)

- ・ 仙台市民の目線ではなくて、東北の中でどうあるべきか、東日本の中でどうあるべきか考える必要がある。
- ・ 外からの目線を意識しないと、仙台の特性がうまく出ないと考える。
- ・ 転勤族など、他の都市との比較で仙台を見る人の意見を取り入れる必要がある。

(委員意見)

- ・ 地権者の立場からすると仙台駅前を経済性の高い地域であり、完全な商業区であると考ええる。
- ・ 効果検証結果は無駄ではないが、現在、商業区としてGDPを上げるために、効果検証の結果をどのように使っていくべきかが分からない。

(事務局回答)

- ・ 仙台市としては、これまで仙台駅前に訪れることがなかった新たなターゲットを公共空間で呼ぶことにより、GDPの向上に貢献できると考える。
- ・ 新たなターゲットに対するマーケティング、どのように引き入れてGDPの向上につなげるかは、民間事業者側の考え次第である。

(委員意見)

- ・ 将来ビジョンの策定にあたって、交通事業者からのアンケート結果はどのように反映していくのか。

(事務局回答)

- ・ 議論の趣旨の関係上、今回の協議会資料には交通事業者からの意見を掲載していないが、将来ビジョンの策定にあたっては、交通事業者からの意見も取り入れていく。

(委員意見)

- ・沿道開発にとってバス停をどのように思っているのかは気になる点である。交通事業者の声もビジョンに反映していただきたい。

(委員意見)

- ・今まで仙台駅前に来ていた方、今いる方を逃がさないことも重要。
- ・東北地方の他県の方が、今後も仙台に来てもらえるような空間を作っていく必要がある。
- ・仙台駅前はずまらない、東京に行こうとならないように。

(委員意見)

- ・これまでの説明で「おどろき」が多かったとあったが、そもそも都市は驚きがあるところであり、驚きがない所は都市ではない。驚きがない空間、まったりした空間は田舎でよい。都市を維持するためには、新たな驚き生まれる空間を作る必要がある。
- ・仙台でないといけないことを生み出すには、挑戦していくことが必要。現状、成功しないと駄目な風潮が新しい挑戦を不可能にしていると考える。
- ・これをやれば儲かるといった方程式がない今の時代にとって、様々なことにチャレンジできる空間を東北地方全体のためにも用意する必要があると考える。都市としての度量の大きさがほしい。
- ・同じチャレンジをするには東京よりも仙台の方がやりやすいはず。「東日本を支えるチャレンジの都市」の中心に青葉通がなくてもいいのではと思っている。
- ・今までは型にはめて街を作ってきたが、今はそうではないと感じる。

(委員意見)

- ・これまでの発言を聞いて「なるほど」と思った。
- ・次回以降の協議会では、都市の人口に限らず、県全体の人口データも見られると良い。県全体の人口を確認することで県内の都市間における補完関係等も見えてくるのではないか。
- ・例えば、愛知県では人口が約 700 万人なのに対して、名古屋市の人口は約 200 万人であることから、名古屋市以外の約 500 万人の各都市が名古屋市を支えていると想定される。

(事務局回答)

- ・人口データは用意したい。また、地方創生のファクターXとして寛容性という観点もある。このようなデータも用いて議論していきたい。

以上